

令和七年度

# 「家庭の日」の 作文作品集

・・・・毎月第3日曜日は「家庭の日」・・・・

「家庭の日」をきっかけに、家族相互の愛情と思いやりの心に満ちた明るい家庭を築くよう努めましょう。





## もくじ



優良賞受賞者一覧

7・8

父のコースター

第五中学校

三年

原田  
莉桜

6

家族の約束

第六中学校

一年

林  
奏心

5

祖母が起こした奇跡

塩田中学校

一年

半田  
小桜

4

家族にありがとう

東小学校

五年

吉田  
一喜

3

少しの記おく

丸子中央小学校 四年

前島  
優莉

2

## 少しの記おく

丸子中央小学校 四年 前島 優莉まえじま ゆうり

わたしには、天国へ行ってしまったおばあちゃんがいます。六年前の寒い冬の一月に、病気でなくなりました。じんぞうの病気でした。その時わたしはまだ三才になるころでした。正直そのころの記おくはほとんどありません。わたしやお姉ちゃん、お兄ちゃんのことが大きさでやさしくしてくれたんだよとお母さんから聞いてそうなんだとずっと思っていました。九才になつて今、思い出してみると、スーパーへお買い物に行つた時、お母さんがおばあちゃんの車イスをおして、わたしは、おばあちゃんのひざの上にすわつてお買い物をしていたことをうつすら思い出しました。お姉ちゃん、お兄ちゃんは、おばあちゃんととの思い出をはつきりおぼえているそうです。おばあちゃんは入院したり、たい院したりをくり返しながら、十五年間は、わたしのお母さんが家でおばあちゃんのめんどうをみていたそうです。お姉ちゃん、お兄ちゃんは、おやすみになる週まつは、いつもおばあちゃんが入院している病院にお母さんといつしょにおみまいに行くのがとてもいやだつたと言つています。まわりのお友達はみんなどこかへ遊びにつれていつてもらつたりしているのに自分たちはいつもおみまいに行くのがつまらなかつたからだそうです。でも今になつてみると、どうしてあの時もつとたくさんおばあちゃんと色々な話をしたりしなかつたんだろう。と後かいしているとお姉ちゃんが言つていました。それを聞いてわたしは、お母さんだつて本当はわたしたちをどこか楽しいところへつれていつたり、遊園地へ行つたりしたかったと思いました。でもおばあちゃんのことも心配だし、とても大へんだったと思います。

今、わたしは後かいしないように生活しようと心がけています。わたしのおじいちゃんは元気です。お姉ちゃんにおばあちゃんとともつとたくさんお話をしたかった。と聞いて、わたしはおじいちゃんと色いろなお話をしています。学校のことやお友達のことなどたくさん話をします。後かいしないためです。そう思えるようになれたのは、おばあちゃんの少しの記おくがあるからだと思います。いつも家族みんなでごはんを食べたり、話をしたりできることは幸せなことです。いつもありがとうございます。おばあちゃん。ありがとうございます。

### (寸評)

幼い時に亡くなつたおばあさんへのうつすら残つてゐる記憶をたどりながら、血身の中に感謝の気持ちを育んでいふ優莉さん。現在、お元気でいてくださいおじいさんとの関わりを大切にするなど、優莉さんに家族への純粋な愛情を感じます。

## 家族にありがとう

東小学校 五年 吉田 一喜

「ぼくの家族は、ぼくとお父さんとお母さんとお母さんの三人家族です。ぼくには、兄弟がいなけれどお父さんとお母さんをいつもひとりじめに出来るのでとってもうれしいです。お父さんとお母さんは、毎日お仕事と家の事を協力し合いながらやっています。ぼくのお母さんは、おじいちゃんやおばあちゃんのお世話をする仕事をしています。時々夜kinで夜家にいないう時があります。そんな時は、お父さんと男二人でいつしょに夕飯を作つたりしています。ぼくもちょっとしたものなら作れるようになります。ぼくのお母さんは、とってもご飯を作るのが上手です。ぼくは、お母さんの作るご飯がとっても美味しくてとっても大好きです。ぼくも美味しいご飯を作りたくてお母さんのお手伝いをしています。でもなかなか上手に作れません。お母さんに作り方を教えてもらうと決まって言うのが「そんなのできとうよ」と笑って言います。できとうに作つていると言われば、こまつてしましました。そんなこまつた顔をしたぼくを見てお母さんは、笑つていました。いつもニコニコ笑顔のお父さんとお母さんだけど時々ニコニコ笑顔がオニのような顔になりぼくをしかります。それは、ぼくがお父さんやお母さんが家の事をやってくれる事を当たり前におもつてしまい、「ありがとうございます」と言つ気持ちをわすれています。ご飯を作つてくれる事そんじをしてくれる事せんたくをしてくれる事。大変な事だと分かっているのに毎日の事だからつい当たり前に思つてしまいお父さんとお母さんをおこらせてしました。当たり前は、当たり前の事じゃないと気が付きました。それからぼくは、どん

な当たり前な事でも「ありがとうございます」と感しやの気持ちをちゃんと言葉やたいどに表してお父さんとお母さんに伝えるようにしています。それからぼくにも出来る事をさがしたりお父さんとお母さんがしてほしい事がないか聞いたりしてお手伝いをしています。ぼくがお手伝いをしているとお父さんとお母さんがニコニコ笑顔で「ありがとうございます」とぼくに言つてくれます。「ありがとうございます」と言われるとぼくの心は、とてもうれしい気持ちになりました。「ありがとうございます」と言つ言葉は、ただの言葉じゃなく言葉いじょうに気持ちが伝わる幸せなじゅもんだとぼくは、思いました。これからは、お父さんやお母さんと学校の先生や友だちにもたくさんのお「ありがとうございます」を伝えていきたいです。毎日笑顔で毎日楽しいぼくの家族は、ぼくのじまんの家族です。「お父さんお母さん大好きだよ♡」これからも毎日楽しく笑顔でいよっね。

(寸評)

何気ない日常の中を振り返ると、当たり前だと思つていてることが実は「ご両親が時間をかけてくれている」と感じる瞬間が付いた一喜さん。その時から、「ありがとうございます」と言葉はただの言葉ではなく、「気持ちが伝わる幸せなじゅもん」と思つようになれた一喜さんの感謝の気持ちが伝わつてきました。

## 祖母が起こした奇跡

塩田中学校 一年 半田 小桜

「行ってきます。夕方には帰ってくるからお姉ちゃん達と待つてですね。」

コロナ禍で休校中だった小学校二年生の春の出来事だ。実家の草刈りに出かけた祖母を、私は笑顔で見送った。夕方になつても帰らない祖母を心配していると、母から連絡がきた。祖母が草刈り中に高台から落ち、ドクターへりで救急病院に運ばれたのだ。頭を強く打ち、胸の骨折もあり、元の生活に戻る事は難しいと医師の説明があつたことを聞かされた。私は頭が真っ白になり、背筋が凍るかと思つた事を覚えている。

私は元気でおもしろい祖母が大好きだ。母は病院で働いているため、祖母が3人兄弟である私達の保育園の送迎や入浴など、日常的なお世話をしてくれた。ケガをして、うでを骨折した私を保育園の遠足に連れて行ってくれた事もあった。小学校に入学し、初めて背負う私の好きな緑色のランドセルも祖母に買ってもらつた物だつた。そんな祖母との幸せな日々は続くものだと思っていた。

祖母の診断名はくも膜下出血・脳挫傷・胸部骨折など、聞いたこともないような病名だらけだつた。それでも当時の私は祖母の体が大変になつていることはわかつた。後遺症により、歩くことや話すことが難しくなつてしまつということも聞いた。私はもう、祖母と楽しくおしゃべりしながら散歩する事もできないのかと、悲しい気持ちでいっぱいの日を過ごした。

その後、祖母はリハビリ病院に移り半年間入院した。そして毎日リハ

ビリを頑張り、奇跡的に歩けるようになり、言葉を交わせるまでに回復したのだ。ケガをする前よりは体が思うように動かなかつたり、言葉が出にくく辛そうな時もあつた。それでも、また家族一緒にご飯を作つて食べたり、出かけたりすることができるようになり、祖母もうれしそうだつた。

「三人の孫がいるから頑張れるんだよ。」今も祖母はくり返し、この言葉を言う。私は中学生になり、祖母の背をはるかに超えた。最近は小さく感じられる祖母の姿だが、私にとつては強く頼りになる大きな存在だ。祖母は痛く辛い思いをしたが、私達家族に大切な事をたくさん教えてくれた。これから的人生は楽しい事ばかりでなく、辛い事もたくさんあると思うがあきらめない強い心で前を向いて歩んできたい。私は家族の絆は奇跡を起こすパワーを秘めていると信じている。これからも家族と楽しい思い出を残していきたい。そして、家族にたくさんの「ありがとう」を伝えたい。

(寸評)

冒頭から上手い入り方で、最初から最後まで詳細に祖母の様子が述べられていて、祖母への思いの深さが感じられます。

最後に家族全員との関わりも一緒にまとめられていて良くできています。文章としての整合性よりも、自分の率直な気持ちを大切にしているのが印象的です。

## 家族の約束

第六中学校 二年 林 奏心

私は小学二年生の弟と六歳の妹の兄弟、そして父、母の五人家族です。私の弟は発音が苦手で、活舌が上手にできません。学校でも発音が上手にできないと友達に真似をされるなど、学校で発音を指摘されるたび弟は発音について悩んでいます。弟が悩んでいると家族は発音のアドバイスをしたり、一緒に発音の練習をしています。

妹は、私と同じ発話障害の「吃音」を持っています。吃音とは話し言葉がスムーズにできず、どもつてしまうことです。最近の妹は話したくても声が出せず、話すことを諦めてしまいます。

私の妹はまだ吃音のこと、発話障害のことを詳しく知りません。だからこそ、吃音のことについて知っている、発話障害を持つている私がその場面を見ているとともに心が苦しくなります。

私は小学生の頃に別の小学校の言葉の教室に月に一度通っています。その先生に相談すると東御市民病院を勧めてくれました。

今は東御市民病院で専門的なM先生のところへ私と妹が通っています。そこでは、吃音になりにくくするために優しく話す練習、学校などの発言場面ではどうするか、学校の友達に吃音のことを伝えるときはどう伝えるなどを話し合っています。

妹は家でも保育園でも話すことを途中で諦めてしまうことをM先生に相談しました。そして、家族の約束として、「どもつてしまっても最後まで話を聞くこと」、「批判的なことを絶対に言わないこと」この二つの約束は少しでも安心して話せるようにと考えた私の家族の約束です。これは妹だけではなく、発音や滑舌が苦手な弟や、吃音を持つていても私に向けても考えられた約束です。

私の母はやることをやらないと怒るし、父は部屋が散らかっていると怒ります。怒られるたびに私は反抗してしまいます。でも、家族の誰かが困っていると優しく話を聞いてくれる母、困っているとこうすればいいんじゃないとアドバイスをくれる父。家族と約束をしたときに私は「私の家族は家族全員のことを気に掛け、話し合いのできる世界で一番素敵な家族」だと思いました。

(寸評)

弟・妹の吃音について、自分事として考えているところが素敵な作品です。家族のことを皆が気にかけ、話し合いでできる世界一の家族を感じたことが素晴らしい。

そして、家族が協力して、ひとつひとつ乗り越えて行くとしている姿が表現されていて、未来を明るくしています。



## 父のコースター

第五中学校 三年 原田 莉桜はらだ りお

私の父は、物のひとつひとつを、とても大切にする人です。割れ物など

を割って壊したことなどもなければ、洋服も、何年間も同じ物を使い続けます。そんな父が特に大切に使っているのが、いつも食事の時に使っているコースターです。

父が使っているコースターは、私が、小学校一年生だった時に、父の誕生日プレゼントとしてサプライズあげた物です。たてがみのおかげで、かろうじてライオンかな?と分かるレベルのイラストが描かれていますが、色あせて、今はそれすらよく分からぬほどの物です。父は、このコースターを、九年間もの間、ずっと使い続けています。

以前、父に、「新しいコースターを買わないのか」とたずねたことがあります。すると、父は、「莉桜がせっかくくれた物を、わざわざ新しくするなんてもったいない。パパは一生死ぬまでこのコースターを大切に使い続けるよ」という返事が返ってきて、ひどく驚いたのを覚えていました。父の中で、「大切な人からもらった物」というのは、他の人から見れば、綺麗ではなくても、父にとっては、とても価値のある物なのだ、というのを実感しました。

そうやって考えてみると、父の使っている茶わんや服は、家族みんなで出かけた時に、みんなで選んで買った物です。父が物のひとつひとつを大切にするのは、その物の中に、もらった時、自分や家族で選んだ時、使った時などのたくさんの記憶や思い出があるからなのかな、と思いました。

私の身のまわりにも、そういう思い出や記憶がつまつた物はたくさんあります。そういう物のひとつひとつを、父のように、大切に使い

続けていきたいです。また、ここ最近は、思春期特有の照れくささもあり、父を思って何かをあげたりすることがあまりありません。なので、今度の父の誕生日には、何かプレゼントしてみようかな、と思います。

### (寸評)

父親は「ものを大切にする」人で、自身がプレゼントしたコースターを長年愛用してくれています。

父との会話から、使っているものには記憶や思いが詰まっていることを知り、自身のまわりのものも同様であることに気が付きました。

照れくさを乗り越えて、父の誕生日にプレゼントをしようと考える作者の心の変化に、父への感謝と尊敬の気持ちが伝わり、心温まる作品となっています。





あうがといふ	南小学校	二年	佐藤	さとう
おもひだい	西小学校	三年	若林	わかな
ねいさんじへくれる家族へ	西小学校	四年	林	はやし
毎日のえがおの日々	神科小学校	四年	尾崎	じゅんのすけ
幸せな時間	清明小学校	五年	絹子	あやこ
お父さんお母さんのおかげ	丸子中央小学校	五年	福澤	ふくざわ
アゲハチョウ	神科小学校	六年	河西	かさい
私の弟	塩田西小学校	六年	佑飛	ゆうひ
私の苦手なお母さん	第四中学校	一年	眞島	ましま
心から「あうがといふ」を	一年	竹内	嶋崎	たけうち
		理葉	心美	りよ
			美澄	みづす



優良賞(十八点) ▾



シングルファザー……………	第五中学校	一年	安藤 あんじゅう
感謝の気持ちを忘れずに……………	第四中学校	一年	池田 いけだ
当たり前……………	塙田中学校	一年	大塚 おおつか
それぞれ違った家族スタイル……………	塙田中学校	一年	杏 あん
私のおじこかやんとおばあかやん……………	第四中学校	三年	小林 こばやし
色あせたエシャツ……………	第五中学校	三年	久保田 くぼた
部活と家族……………	塙田中学校	三年	向日葵 ひまわり
お墓参り……………	塙田中学校	三年	詩菜 うたな
佐藤 さとう	綱島 つなしま	伊東 いとう	陽愛 ひな
貴子 たかこ	陽也 はるや	ほのか	美織 みおり



上田市教育委員会